



LIBRARY

いわき総合高校図書委員会 平成29年6月号



今月のオススメ📖

◀坊っちゃん▶ 著者：夏目 漱石

主人公の「坊っちゃん」は、親譲りの無鉄砲で子供の頃から損ばかりしています。物理学校卒業後、中学教師になりますが……。中学校では、因縁の相手「赤シャツ」を「山嵐」と共闘して懲らしめます。坊っちゃんは無鉄砲ですが、正義感が強く、まっすぐな人です。

『坊っちゃん』に出てくる「清」というお手伝いさんとの絆も見所です。おもしろいので、見かけたらずひ手にとって読んでみてください。(KM)

◆図書だより編集部より◆

2016年は夏目漱石没後100年でした。2017年の今年は生誕150年の節目の年だそうです。

『坊っちゃん』は、愛媛県の旧制松山中学校（現在の松山東高校）での経験をもとに書かれたことで有名ですね。松山中学在職中は、親友の正岡子規とともに句会を開くなどして、俳句にも精進していたそうです。松山は子規の故郷でもあります。漱石は子規に俳句を習い、俳句の腕を上げました。元々“漱石”というペンネームも、子規が俳句で使っていた雅号の一つを譲り受けたものです。

漱石は松山中学校のほかにも、熊本市の第5高等学校（熊本大学の前身）や東京帝大（現在の東京大学）等でも教鞭をとっていました。東京帝大の教授昇進を目前にした40歳のとき、職を辞し執筆活動に専念します。小説記者として朝日新聞社に入社し、小説の連載を始めます。朝日新聞に連載された小説には、『虞美人草』『坑夫』『三四郎』『それから』『門』『彼岸過迄』『行人』『こころ』『道草』があります。1916年に『明暗』の連載を始めますが、連載は第188回で中断。12月9日胃潰瘍が悪化し、49歳で死去。

『坊っちゃん』は何度も映画やドラマ化され、物語の内容は知っていても案外読んだことのある人は少ないのではないのでしょうか。図書委員の“オススメ”にもあるように読みやすく、愉快的な小説ですので、ぜひ読んでください。



マナーを守りましょう!

みなさん学校や普段の生活の中で、マナーを守っていますか。以前から、いわき市立図書館（ラトブ4・5階）での高校生のマナーが悪いと言われています。いわき総合生のみなさんは大丈夫ですよ。

学校図書館でもごく一部の人ですが、昼休みの貸し出し時、5校時の予鈴が鳴ってからカウンターへ来る人がいます。本校はチャイム to チャイムです。チャイムと同時に授業が始まります。教室移動もありますので、図書委員のカウンター業務は13:15で終了です。

また借りた本は各自でしっかり管理し、教室に放置したり、又貸ししたりせず、マナーを守って利用しましょう♪



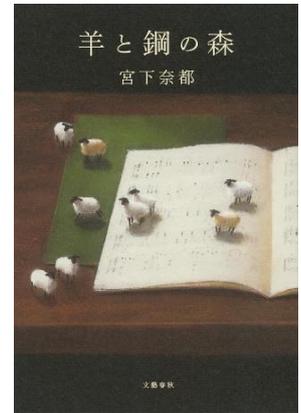
先生のオススメ

柴田 玲子 先生

《羊と鋼の森》 著者：宮下 奈都 **2015年 本屋大賞第1位!**

「体育館の隅に置かれた黒いピアノ。調律師の板鳥さんが鍵盤をいくつか叩くと、蓋の空いた森から木々の揺れる音と匂いと音がした。」高校生の外村は、その音と匂いに導かれるように調律師への道を歩み出します。先輩や顧客たちとの触れ合いを通して、調律師として、人間として成長していく青年の姿を描いたものです。

2016年の本屋大賞受賞作なので、もうすでに読んだ人もいるでしょう。ともすれば華やかな部分や表舞台ばかりが目されることの多い世の中ですが、裏方ともいふべき世界で、葛藤しながらも一途に自分の信念を貫いていく主人公の姿に、心洗われる思いがします。



☆生徒へひと言☆

私たちはどう欲張っても、自分ひとりの生き方しか経験できません。しかし10冊の本を読めば、10の生き方・感じ方を追体験することができます。感受性豊かなこの時期に、読書を通して多くのことを吸収してください。

話題の本😊

《顔ニモマケズ》 著者：水野 敬也

『顔ニモマケズ』は、ベストセラー『人生はニャンとかなる!』、『夢をかなえるゾウ』等の自己啓発本を数多く出されている水野敬也さんが、NPO法人マイフェイス・マイスタイルの協力のもと、見た目に傷やアザなどの症状を持つ「見た目問題」当事者の方たちと会話を重ねる中でできた本です。新聞・雑誌等の各メディアで取り上げられ、今話題の本です。

水野さんは、みなさんと同じ思春期の頃“醜形恐怖”という外見にこだわり、悩んだ経験があるそうです。内科に通い詰め、最後は心療内科に行くよう医師に言われたそうです。強迫観念ですね。水野さんに限らず、誰もが多かれ少なかれ、そういった悩みを経験しているのではないのでしょうか。特に、日本人はその傾向があるようです。本書の「はじめに」にもありますが、アンケートで「自分の外見の美しさに満足している」と回答した人が、日本は22か国中で最も少ない14%。全体平均の38%を大きく下回ったそうです。

サブタイトルには、“どんな「見た目」でも幸せになれることを証明した9人の物語”とあります。今、将来の進路について、学校や恋愛・人間関係などに悩んでいる人には、本書が問題を解決するための何らかのヒントになるかもしれません。



《高校生が生きやすくなるための 演劇教育》 著者：いしい みちこ

本書は2014年3月まで、13年間本校いわき総合高校に在職していた先生の著書です。現在、大阪の私立追手門学院高等学校の「表現コミュニケーションコース」で表現教育を担当されているそうです。

本校での経験や平田オリザさんとの対談も収録されています。

